

別記様式 2

北海道ブロック水産業関係研究開発推進会議報告書

| | |
|-------|------------|
| 会議責任者 | 北海道区水産研究所長 |
|-------|------------|

- 1 開催日時及び場所 日時：平成24年12月6日～7日
場所：KKRホテル札幌会議室
- 2 出席者所属機関及び人数 17 機関 33名
- 3 結果の概要

| 議 題 | 結果の概要 |
|---|---|
| <p>報告事項</p> <p>1.情勢報告（水産業を取り巻く情勢、研究開発体制、研究開発関連予算、研究開発上のトピックス）</p> | <p>参加機関から以下の報告があった。</p> <p>①水産庁研究参事官から、東日本大震災への対応、平成25年度予算要求関係、水産基本計画の策定、大型クラゲの来遊状況と対策予算の概要、ウナギ緊急対策の概要、資源管理・漁業所得補償対策、省エネ・省コスト関連事業、地域水産試験研究振興協議会、PICES2012年次会合（広島）および農林水産技術会議事務局関連として委託プロジェクト研究、農林水産・食品分野の成長産業化に必要な研究開発事業の内容について報告があった。</p> <p>②水研センター本部（以下、水研Cと称す）研究主幹およびコーディネーターから、水産大学校と統合する新法人設立検討の状況、研究開発、社会連携、研究交流、東日本大震災対応について報告された。</p> <p>③北水研から、NPAFC、PICES、日ロ漁業専門家・科学者会議の概要が報告された後、調査・研究推進をめぐる情勢について以下の報告がなされた。スケトウダラ日本海北部系群の資源量および加入量の水準が低いことおよびホッケの資源量減少への懸念、我が国周辺海域への海獣類の来遊数が増加し、漁業被害が顕著であること、資源変動要因解明に向けオホーツク海領域モデルおよび北海道周辺沿岸モデルの改良を進めていること、痩せたキタムラサキウニの付加価値向上を目的とした低温飼育技術および低温ワムシ育成によるスケトウダラの仔稚魚飼育技術を開発したこと、サケについては来遊数は昨年を若干上回る水準（約108%）で推移しているものの魚体の小型化により水揚げ重量は昨年を下回り、来遊が不安定</p> |

な状況が続いていることが報告された。

④道総研水産本部および中央水試から、道総研全体を含めた報告があった。

・水産をめぐる情勢として、平成24年の後志管内における主要魚種のホッケの漁獲量は前年比132%、ホッコクアカエビの漁獲量は前年比63%、スルメイカは道央は昨年度並みであったが、道北は前年比24%と地域により差が見られたこと、スケトウダラ北部日本海系群2012年級群は卓越発生した見込み、対馬暖流の流量は6月から8月までは少なかったが、10月では平年並みに戻っていたこと、沖合水温は30m以浅では累年平均より5℃高く、50m以深では逆に累年平均より冷たかったことが報告された。

・調査・研究推進をめぐる情勢では、今期中運営費交付金は毎年少なくとも1%が削減される予定であること、平成22・23年度目的積立金により、今年度1千万円以上の高額備品を含めて道総研全体として研究用備品の整備を進めていることが報告された。

・調査研究運営上のトピックスとして、ナマコ浮遊幼生判別のため、瀬戸内水研の協力を得てナマコ幼生調査を実施、「給餌型ウニ低温蓄養システムの開発」では、低温飼育による成熟抑制技術の検討を北水研が、餌料コンブの安定生産・供給技術の検討を北海道大学が担当して研究継続中、「漁場生産力の有効活用によるアサリ母貝場造成および新規創出技術開発」では、増養殖研および北水研と共同で研究を実施していることが報告された。

⑤函館水試から水産をめぐる情勢として、道南太平洋のスルメイカは昨年を下回る状況、道南日本海～太平洋のホッケ漁獲量は昨年の4割であったこと、夏季の高水温が持続しホタテガイ養殖施設でストレスを与える作業を控えるよう促したこと、養殖ホタテガイへのヨーロッパザラボヤの付着は少なかったことが報告された。

⑥栽培水試から水産をめぐる情勢として、日高管内の7～9月の沿岸水温は過去の平均より3～7℃高く推移したこと、さけ定置ではサケが不漁、代わりにブリ等がトン単位で入網するなど南方系魚類が漁獲されたこと、ホタテガイでは当歳および耳吊り2年貝の斃死率が高い状況であったこと、室蘭沖で漁獲されたマダラから100ベクレルの放射性セシウムが検出されたことが報告された。また、奥尻島で強い要望がある「イワガキの養殖産業構築に向けた種苗生産技術開発」を平成25年度から開始するとのことであった。

⑦釧路水試から水産をめぐる情勢として、道東太平洋のサンマの漁獲量は前年と同程度であったが金額は7割程度に減少、道東海域のまき網漁業では、サバが9千トン、マイワシが6千トン、カタクチイワシが2千トン漁獲されたことが報告された。さらに、サバは1978年（2万トン）以来、マイワシは1992年（14万トン）以来の高い水準、道東のコンブは繁茂状況が前年より良好で生産量の増加が見込まれることが報告された。

・調査研究のトピックスとして、試験調査船北辰丸（平成元年建造）の代船建造について、概略設計及び基本設計を開始したこと、「マツカワの産卵生態解明と「産ませて獲る」を実践する栽培漁業体系の確立」に関する課題が継続中（平成22～25年度）、サケの高品質化を目指して開発された脱血処理装置を用いて地元漁協での実証事業を検討中であることが報告された。

⑧網走水試から水産をめぐる情勢として、春の低水温・宗谷暖流の弱勢が影響し、全体的にホタテガイの成長不良や産卵遅れが見られること、地まきホタテガイの小型化が問題になっていることが報告された。

・調査・研究推進をめぐる情勢では、研究職員が減少する見通しの中で地域対応課題の取り扱いに苦慮していること、来年度からアキサケの凍結解凍に伴うゼリーミート現象の解明に向けた課題に取り組むことが報告された。

⑨稚内水試から水産をめぐる情勢として、日本海北部の利尻・礼文島周辺における水温は、4月は平年よりも低めであったが、表層域は6月以降上昇し始め10月は平年より3～4℃高くなったこと、40m以深は例年より低いままであったこと、4月の爆弾低気圧により宗谷のホタテ採苗施設が甚大な被害を受けたこと、道北海域におけるホッケの漁獲状況は昨年よりもやや好調であるが、資源回復に向けた道の指導に基づき漁獲努力量等の3割削減を実施することとなったこと、オサガメ等暖海性生物の混獲があったことが報告された。

・調査・研究推進をめぐる情勢では、北水研、大学、民間と共同で、農林水産技術会議からの委託事業「操業情報共有による北海道マナマコ資源の管理支援システム開発とガイドラインの策定」（平成23～25年度）を実施、また大学と共同で、北海道総合通信局からの委託事業「小型漁船群による海洋センシングとユビキタス漁業支援に関する研究開発」（平成23～24年度）に取り組んでいることが報告された。

⑩さけます内水試から水産をめぐる情勢として、道内の海面水温は8月下旬から10月中旬にかけて記録的な高水温となり、

| | |
|-----------------------------|---|
| | <p>サケの回帰にも影響があったと推察され、特に日本海中南部やえりも以西では水温低下が鈍いことなどにより一層厳しい来遊状況となっている（特に檜山地域では漁獲ベースで前年比12%と極めて低位であること、一方種卵確保については最重要増殖河川である利別川については地場種卵による稚魚放流予定分は100%確保できたこと、今年のサケの特徴的な事象として全道的かつ複数年級で魚体の小型化が認められる）ことが報告された。また、北水研に対して北太平洋海域における短期・中期的な海洋環境の情報提供について要望があった。</p> |
| <p>2.関係水研からの情勢報告</p> | <p>関係水研からの情勢報告がなされた。 東北水研は、東日本大震災からの水産業の復旧・復興への取り組みおよび研究開発について報告があった。日水研、水工研、瀬戸水研、増養殖研からは研究開発の取り組みについて報告があった。</p> |
| <p>3.平成23年度協議事項のフォローアップ</p> | <p>平成23年に上げられた水研Cに対する要望、増養殖分野2件について北水研から対応状況の報告があった。</p> |
| <p>4.調査研究部会報告</p> | <p>会議報告に基づき北水研から調査研究部会活動の概要が報告された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会傘下の「亜寒帯海洋モニタリング研究会」、「ニシン資源研究会」、「コンブ資源研究会」、「マツカワ研究会」の概要が報告された。 ・平成24年度研究開発成果情報として、「北海道日本海におけるハタハタ資源の再生産機構」（道総研 中央水産試験場）、「湾・内海スケールでのアサリ稚貝の自給と干潟ゾーニングによる生産増大システムの開発」（道総研 中央水産試験場）、「人工ふ化放流河川におけるサケ野生魚の割合推定」（北水研 さけます資源部）、「水温がホッケの成長にどのように影響するか?」（北水研 資源管理部）、「低温ワムシの育成によりスケソウダラ仔稚魚の飼育に成功」（北水研 生産環境部）の5課題が承認された。 ・地域水産試験研究振興協議会の概要が報告され、「漁海況モニタリングの維持・強化について」今後本調査研究部会で検討すること、磯焼け対策に関する情報交換については「コンブ資源研究会」を情報交換の場とすることが承認された。 |

協議事項

5. 研究ニーズについて

道総研から提案された研究開発ニーズ2件について、担当の北水研生産環境部長から対応方針が提案され、協議した結果、承認された。

(1)リアルタイム水温データの有効利用（道総研 釧路・中央水産試験場）北水研が運用している「沿岸水温リンク集」等の既存表示に関する利用者の意見等を取り入れて表示法や運用のあり方について意見交換を行うなど連携を強化する。

(2)北海道周辺高解像モデルの精度向上及び実用化（道総研 網走・中央・釧路水産試験場）道総研、北大、北水研が共同して技会シームレスプログラムの「産学機関結集型」へ応募すべく作業を進めることとなった。

6.水産研究成果情報について

水産研究成果情報については、調査研究部会で報告・検討されて採択されてた5題の報告があった。

7.ブロックとして取り組むべき事項に関する意見交換

・北水研所長から「将来の水産研究と北海道ブロックの現実的諸問題の検討」と題する意見交換の場を設け、具体的課題として「北海道周辺海域における高水温や異常な現象への対応に向けて」を取り上げた趣旨説明があった。

・北水研業務推進部長から「2012年北海道周辺海域における高水温現象の概要」が紹介された後に意見交換を行った。

・北水研から昨年度の議論を受けて、モニタリングの現状や重要性をアピールする具体的なホームページ（以下、HP）のたたき台である「北海道周辺の海と魚の今」に関する説明がなされ、窓口として北水研は横内副所長、道総研は三宅部長とすることが提案された。

・意見交換の後、一般市民向けを念頭にわかりやすいHPを目指すこと、予算措置は作業を進める状況に合わせてその都度相談すること、この作業は調査研究部会に付託することで検討を進めることが了解された。

今年度の課題に関しては、高水温や異常現象については具体的研究課題を想定し、道総研と北水研が共同研究を進める中で観測ツールや現場へのフィードバック等を検討することが重要との意見が出され、具体的な課題としてシロザケの不漁の問題、水温変動に関する予測モデル事例が紹介された。

シロザケに関しては、シロザケの秋季における来遊量や時期と水温の関係、シロザケの降海時期と沿岸水温の関係について

はさけます推進会議でも議題としてあがっており、さけます推進会議の研究部会等で検討することになる。

水温変動予測に関しては、北水研生産環境部長から、農林水産技術会議の新規事業である農林水産業食品産業科学技術研究推進事業へのエントリーを目指し、北水研・北大がモデル開発、道総研は水産業への活用を担当し、出口を成果が見えやすいホタテガイに絞り込み、貝毒プランクトンやホタテ浮遊幼生の粒子実験を取り上げることになり、現在素案を担当者で検討中で、本部の研究開発コーディネーターとも意見交換をしていることが紹介された。

ホタテガイは天然採苗に頼り、環境要因に大きく影響されることから、天然採苗時期の早期予測が求められている他、貝毒プランクトンによる貝毒の発生予測も求められていることから、タイトルは「日本海からオホーツク海沿岸におけるホタテガイ漁業支援システムの開発」として、北海道周辺海域モデルの高精度化、サブモデルの導入、それらを使ったホタテガイ漁業支援情報の発信を進めていく。最終的にはパソコンで動くパッケージのツールにして各水産試験場に配布し、使い方を研修して各担当者により現状の分析や今後の予測ができるようにしたい。

座長から外部資金の予算取りができるよう連携機関の担当者の頑張りを期待し、水産庁や水研センター本部のバックアップをお願いしたい旨発言があった。

最後に、座長から漁海況モニタリングの重要性は共通認識である。今後は水産庁を中心として我々も的確に動けるようその時々状況に関して情報交換を行い対応していきたい。また、できるところから対応していくことが基本。北水研と道総研が連携してブロックでの漁業者や一般市民に理解してもらえよう情報発信する活動を行っていききたいとの発言があった。

平成24年度北海道ブロック水産業関係研究開発推進会議議事次第

開催日時：平成24年12月6日（木） 13：30～17：00
12月7日（金） 9：30～12：00

開催場所：KKRホテル札幌 3F 鳳凰
〒060-0004 札幌市中央区北4条西5丁目
TEL 011-231-6711

議事次第

1. 開 会
2. 挨拶 北海道区水産研究所長
水産庁増殖推進部参事官
3. 座長選出
4. 議 事
報告事項
 - 1) 各機関からの情勢報告
水産庁、水研センター本部、北水研、
道総研水産研究本部、道総研各水産試験場
 - 2) ブロック・共通分野別推進会議の情勢報告
 - 3) 平成23年度協議事項に対する対応（北水研）
 - 4) 調査研究部会報告（北水研）
協議事項
 - 5) 研究開発ニーズへの対応
 - 6) 水産研究成果情報について
 - 7) ブロックとして取り組むべき事項に関する意見交換
 - 8) その他
5. そ の 他
6. 閉 会

平成24年度北海道ブロック水産業関係研究開発推進会議 参加者名簿

(敬称略)

| 機関名 | 役職 | 氏名 |
|--|-----------------------------|--------|
| 水産庁 | 増殖推進部 参事官 | 中山 一郎 |
| 水産庁北海道漁業調整事務所 | 所長 | 佐藤 愁一 |
| 〃 | 資源課監督指導官 | 伊藤 正輝 |
| 〃 | 資源課監督指導官 | 松下 幸太郎 |
| 北海道庁 | 水産林務部水産局水産振興課 研究普及担当課長 | 斉藤 幸雄 |
| 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 | 水産研究本部長 (兼中央水産試験場長) | 鳥澤 雅 |
| 〃 | 企画調整部長 | 野俣 洋 |
| 〃 | 企画調整部企画調整課長 | 佐藤 一 |
| 〃 | 企画調整部主査 | 金田 友紀 |
| 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 函館水産試験場 | 場長 | 杉若 圭一 |
| 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 栽培水産試験場 | 場長 | 西内 修一 |
| 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場 | 場長 | 高柳 志郎 |
| 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 網走水産試験場 | 場長 | 等々力 順祐 |
| 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 稚内水産試験場 | 場長 | 吉田 英雄 |
| 地方独立行政法人北海道立総合研究機構 水産研究本部 さけます・内水面水産試験場 | 場長 | 永田 光博 |
| 独立行政法人水産総合研究センター 本部 | 研究推進部 研究主幹 | 岸田 達 |
| 〃 | 経営企画部 経営企画室 経営企画コーディネーター | 高野 正嗣 |
| 独立行政法人水産総合研究センター 東北区水産研究所 | 業務推進部長 | 小谷 祐一 |
| 独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 | 業務推進部長 | 中島 員洋 |
| 独立行政法人水産総合研究センター 水産工学研究所 | 所長 | 大石 浩平 |
| 独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 | 業務推進部長 | 川崎 清 |
| 独立行政法人水産総合研究センター 増養殖研究所 | 養殖システム部長 | 町口 裕二 |
| 独立行政法人水産総合研究センター 北海道区水産研究所 | 所長 | 福田 雅明 |
| 〃 | 副所長 | 横内 克巳 |
| 〃 | 業務推進部長 | 秋山 秀樹 |
| 〃 | 資源管理部長 | 檜山 義明 |
| 〃 | 生産環境部長 | 薄 浩則 |
| 〃 | 特任部長 | 石黒 武彦 |
| 〃 | さけます資源部長 | 永澤 亨 |
| 〃 | さけます資源部 次長 | 浦和 茂彦 |
| 〃 | 業務推進部業務推進課長 | 野上 欣也 |
| 〃 | 業務推進部業務推進課 | 江連 睦子 |
| 〃 | 業務推進部業務推進課 | 楠茂 恵一 |